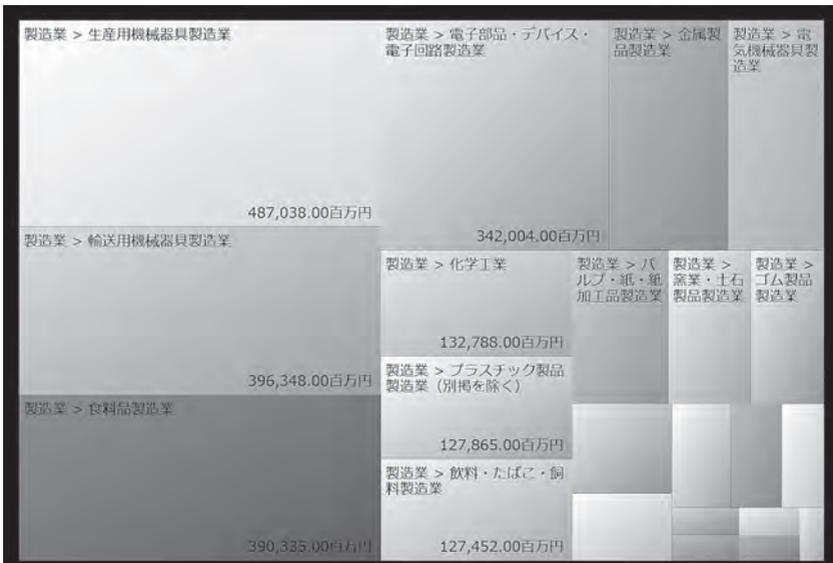


【参考】データ収集① 地域経済分析システム（RESAS）の活用

人口や県内総生産などの統計データは、公表元のホームページ等で確認するのが一般的ですが、経済構造を簡単かつ視覚的に確認できるツールの1つに「地域経済分析システム」（RESAS：通称リーサス）があります。

RESAS（Regional Economy Society Analyzing System）は、地方創生のさまざまな取組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が提供しているツールで、自治体職員や地域活性化に関心を持つさまざまな分野の方々に利用されています。

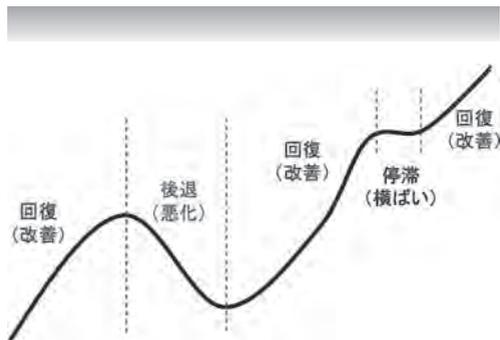
図 4-5 RESAS を活用した産業構造等の分析（製造品出荷額等）



出典：「RESAS（地域経済分析システム）—製造業の構造—」（2022年11月17日に利用）。

先ほど説明した人口推移や製造品出荷額なども RESAS を使うことによって容易かつ視覚的に状況を把握することが可能で、2019 年の熊本県の製造品出荷額等（図 4-4 円グラフ）も簡単な操作で表示できます（図 4-5 参照）。

RESAS のサイトには操作方法を解説した動画もありますので、関心がある方は是非お試しください。



■オルタナティブデータの活用

これまで、個人消費における商業動態統計、家計調査などの公的統計は、2か月程度遅れて公表されるなど速報性に欠けるという短所が指摘されてきましたが、新型コロナの影響による生活様式の変化や、社会・経済情勢の先行き不透明感もあって、コロナ禍でその短所がより浮き彫りとなりました。このため、クレジットカードの決済情報やPOS データ、携帯電話の位置情報などの民間データを活用する動きが活発化しています。

これらのデータは、政府の公的統計の代替という意味で「オルタナティブ（代替の、別の）データ」と呼ばれており、例えば、クレジットカードの決済情報であれば、現金で支払った消費の動きは把握できないものの、インターネット通販など、クレジットカードを使用した消費の動きは、旅行や飲食などのサービス消費を含めてカバーでき、経済の動きをよりリアルタイムに近い形で把握できるという特長があります。

このため、政府がとりまとめる「月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料」でもオルタナティブデータが使用されています。

【参考】データ収集② V-RESAS の活用

オルタナティブデータを手軽に活用できるツールの一つが「V-RESAS」（バイ・リーサス）です。V-RESAS は、新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響等の「見える化」を行っているもので、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局と内閣府地方創生推進室が提供しています（[図 4-8](#)、[図 4-9](#) 参照）。

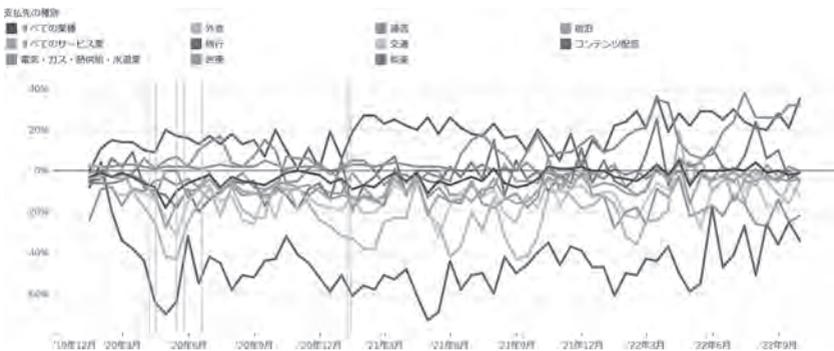
RESAS と同様に、簡単な操作で人口移動（人流）、クレジットカードの決済情報、宿泊者数、飲食店情報の閲覧数などを確認できます。

図 4-8 V-RESAS (トップページ)



出典：「V-RESAS」(2022年11月17日に利用)。

図 4-9 V-RESAS (熊本県の決済データから見る消費動向)



出典：「V-RESAS, JCB/ナウキャスト『JCB消費NOW』」(2022年11月17日に利用)。